52th クラブ週報城東版

国際ロータリー第2580地区

Rotary
東京城東ロータリークラブ

2018.　1.　29　　第2411回例会

「ロータリーの可能性を追求しよう」

東京城東ロータリークラブ会長　阿部　豊

例会日　毎週月曜日　12:30 ～ 13:30
例会場　〒 130-0013　墨田区錦糸1-2-2　TEL 5611-5511
東武ホテルレバント東京
事務局　〒 130-0013　墨田区錦糸1-1-5
TEL 5637-4605　FAX 5637-4611
事務局　天尾　文（伊藤）
E-mail　jyoto@club.email.ne.jp

会　長	阿 部　豊	副会長	若井　一郎
幹　事	江波戸　健 治	副幹事	重田　敦史
		会報委員長	宮﨑　浩一

R I 会長
イアン H.S. ライズリー

第2580地区ガバナー
吉 田 雅 俊

第2580地区幹事
本 多 良 美

ガバナー補佐：山本和夫
(東分区担当)
東分区幹事　：中山直幹
東分区副幹事：山本昌之

ロータリー：変化をもたらす

本日の卓話

「 ロータリーは職業奉仕 」

第2580地区 職業奉仕委員長
林　茂 男 氏

2018/1/22(月)
「 すべては1本の電話から 」
＜振込め詐欺防止DVD上映＞

2018年1月22日 例会報告

点　鐘
ロータリーソング　『我等の生業』
ゲストスピーカー　0名
ゲスト及びビジター　0名
会員出席状況　47名中33名(出席率70.21%)
前々回訂正出席率　100%

- 来月2月の受付当番 -
山口君/山田(昇)君/若井君/会田君/秋山君

ニコニコボックス

○卓話は深川警察署より、伊藤 (健) さん・出店さんが頂いた物です。よろしくお願い致します。
若井一郎君・江波戸健治君・重田敦史君
佐野一信君・渡辺孝至君・池永憲明君

○振込め詐欺防止 DVD を上映します。よろしくお願い致します。
出店要蔵君・伊藤健一君

○初例会お休みして申し訳ございません。今年もよろしくお願い致します。
鈴木竹敏君

○お祝いを頂いて。
中村浩紹君・石川　勲君・田島敬三君

小計￥36,000.-　累計￥1,532,000.-

次回の卓話

「 近況報告 」

クラブ奨学生
朴　昭 泳　さん

内 容 充 実 の 為 に、皆 様 か ら の 投 稿 を お 待 ち し て お り ま す ！

▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽

ＲＩニュース：2017. 12.19
～国際協議会報告～

▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△

国際ロータリー バリー・ラシン次期会長の願いは ロータリアンが「インスピレーション」になること

去る日曜日、国際ロータリーの次年度会長バリー・ラシン氏（バハマ、イーストナッソー・ロータリークラブ所属）がロータリーの未来のビジョンについて語り、会員や地域の人びとへのインスピレーションとなって、次世代のために持続可能な活動を行うよう次期リーダーに呼びかけました。

ラシン会長エレクトは、米国サンディエゴで開催中のロータリー国際協議会で、次期地区ガバナーに向けて 2018-19 年度テーマ「インスピレーションになろう」を発表。「何か大きなことに挑戦しようというインスピレーションを、クラブやほかのロータリアンに与えてください。自分よりも長く、後世にも生き続けるものを生み出すために、行動を起こす意欲を引き出していただきたいのです」

ロータリーの新しいビジョン声明は、次のように謳っています。「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています」。ラシン氏は、このビジョン声明の意義を強調し、声明がめざすロータリーを実現するためにリーダーシップを発揮するよう求めました。

ビジョンの実現にはまず組織づくりが必要だと、ラシン氏は強調します。「ロータリーは第一に会員制組織です。ですから、奉仕活動を通じてより良い世界を築きたいと願うなら、まずは会員を大切にしなければなりません」

「変化を生み出そうという意欲を、クラブ会長と地区内ロータリアンの心に芽生えさせていただきたいのです。もっと何かをしよう、可能性を最大限に発揮しようというやる気を引き出し、それぞれのやり方で前進できるよう手助けすることが皆さんの仕事です」

ポリオ撲滅の進展

ロータリアンにとってインスピレーションの源の一つはポリオ撲滅活動である、とラシン氏は述べ、過去 30 年間に成し遂げた顕著な進展に触れました。1988 年には野生型ポリオウイルスによって推定 35 万人が身体まひを患っていましたが、2017 年に報告されたポリオ症例数はわずか 21 件。「今がポリオ撲滅活動の正念場」と語り、「新規症例があるたびに、それが史上最後の症例となる可能性がある」と述べました。

ただし、最後の症例が報告されても仕事が済んだわけではないと、ラシン氏は強調します。「撲滅認定委員会がポリオ撲滅を正式に認定するまで、すなわち 3 年間、川や下水、または人の体内からポリオウイルスが一切発見されなくなるまで、ポリオ撲滅活動は終わらないのです。……それまでは、今行っているすべてのことを続けていかなくてはなりません」。こう述べたラシン氏は、予防接種活動やサーベイランス（監視）に引き続き力を入れていくことの重要性を訴えました。

環境の持続可能性を守る

さらにラシン氏は、近年、ロータリーが人道的活動における「持続可能性」を重視していることに触れ、環境汚染や気候変動という厳しい現実をロータリアンが認識すべきであると述べました。祖国バハマの土地の 80 パーセントが海抜 1 メートル以下であることも指摘。2100 年までに海面が 2 メートル上昇すると推定されており、「私の祖国は、ほかの多くのカリブ海諸島や、世界中の沿岸都市や海抜の低い地域と同様、50 年後にはなくなってしまう」と懸念します。

ロータリーのすべての奉仕活動を、より大きなグローバルなシステムの一部としてとらえるよう、ラシン氏は呼びかけました。これは、次期地区ガバナーが、クラブだけでなく、地域全体にとってのインスピレーションとなる必要性を意味する、と述べます。「持続可能な活動成果をもたらし、世界をより良くしたいと私たちは願っています。ロータリー内部やロータリアンのためだけでなく、世界全体のあらゆる人たち、あらゆる世代のために、私たちにできることがあるのです」

（記事 Hank Sartin　写真 Monika Lozinska）